

## 明治ステップセシウム混入ミルク事件によせて

テルス調剤薬局 原田 美恵子

明治乳業の粉ミルクステップから放射性物質セシウムが検出されたことは、子を持つ親に衝撃を与えた。日本では過去にも森永ヒ素ミルク中毒事件により多くの将来ある子達が犠牲となった歴史がある。ヒ素とセシウムで物質は異なるが、人災という点では共通しており、粉ミルクを摂取した子達の将来への影響が懸念される。

報道によれば福島第一原発事故で外部に拡散された放射性核種が、外気を取り込んで行う乾燥工程で粉ミルクに入り込んだことがセシウム混入の原因のようであるが、原発事故後に次から次へと放射線で汚染された食品が見つまっている今日の状況の背景には行政対応の遅れがあることは言うまでもない。

行政の対応が後手に回ることも残念だが、さらに残念なことは生産者が原料の検査等で事前に警戒していれば今回のようなセシウムの混入をある程度防止できたのではないかとこの点である。今回の件に関しては、報道の 2 週間前にすでにセシウム混入の情報が明治乳業側に寄せられていたにも関わらず、明治乳業では自社検査を実施していなかったことが判明しており、消費者、それも自ら判断、決定することの出来ない乳幼児のことなどを全く考えてない企業精神の劣化、腐敗と販売を優先して不都合な事実には目をつぶり、消費者をごまかし得ると倫理のほうが深刻な問題であると思われる。

今回の町田&町田商会では、セシウム混入の報道を受け、対象商品の撤去、回収を速やかに行った。メーカー、政府の発表を鵜呑みにせず、独自に県薬衛生検査センターに品質の確認検査を依頼し、その結果を公表し消費者に安全性の説明を行った。当社独自の迅速な対応は、消費者にいち早く安心を提供できたに違いない。

私たち薬剤師は今回の事件を真摯に受け止め、薬局は消費者の最後の砦であることを肝に銘じ、地域の公衆衛生の向上に寄与し、国民の健康な生活を確保することを第一に考え、薬剤師の職能の最善をつくし行動することにより消費者との信頼関係を築いていくことが大切であると痛感した。